広報担当が聞く！

教えて！村長さん

村長のトップセールスで、南阿蘇村に何を呼び込む？

今回は、村長が考えるこれからの取り組みと、村の未来に向けた想いをお伝えします。

Q 村長自らトップセールスに動くのは、なぜですか？

A 村の中で待っているだけでは、新しい事業や支援、人との出会いにつながらないからです。村の課題や目指す姿を、私自身が企業や大学、関係機関などに足を運んで直接お伝えし、対話を重ねる中で、具体的な取り組みにつなげたいと考えています。その成果を、村民の皆さんのくらしや地域経済に還元することが、トップセールスの狙いです。

成果の一つとして、企業版ふるさと納税による寄附の拡大があります。令和6年度の545万円から令和7年度の寄附額は2，875万円と、企業版ふるさと納税の寄附額も増加していて、村の事業や将来像に共感してくださった企業から寄附をいただいています。大切なのは、寄附をいただくことだけではありません。いただいた寄附を、地域の課題解決や将来につながる事業に活かし、村民の皆さんに変化と成長を実感していただくことです。その一つが、産官学連携の協議会です。いただいた寄附金を活用し、企業の技術や大学の専門性を生かして、地域課題の解決や新たな実証事業に取り組んでいます。今後は、日々進化するデジタルやAIなどの分野でも、村を実証実験の場として活用していく考えです。

このほか、ネイチャーポジティブに取り組む企業や大学とも連携し、草原や水源など村ならではの自然を、守るだけでなく地域の価値として生かす方法を探っています。

また、村民の皆さんの暮らしの安心につながるスーパーマーケットの誘致は実現には至っていませんが、私自身が企業に足を運び、交渉を重ねています。すぐに結果が出ない課題でも、粘り強く対話を続けていきます。

Q これから新しく始まる取り組みを教えてください。

A 農業では、土地利用型作物として、米の生産維持、そばの生産拡大にも引き続き取り組むとともに、新たにハーブ栽培を推進し、「ハーブの村づくり」に着手します。ハーブは独特の香りにより鳥獣被害を受けにくく、国産ハーブの需要も高まっています。あわせて、農地を有効に活用することで、農村景観の保全にもつなげることができます。栽培にとどまらず、商品開発、加工、観光、大手化粧品メーカーとの連携も視野に入れ、農業所得と地域の魅力を高めていきたいと考えています。

また、草原や水源など村ならではの自然を、守るだけでなく地域の価値として生かすため、企業や大学と連携し、自然環境に配慮した農業や草原管理などにも取り組みます。環境保全と地域の仕事づくりが両立する仕組みを目指します。

そして、発信では、私自身も合併20周年を機に誕生した村のイメージキャラクター「ブルル」と「ミルリ」とともに、村の魅力発信を続けていきます。イベントやSNS、広報紙などで継続的に活用し、認知度向上や観光誘客、地域産品のPRにつなげ、仕事や所得、くらしの安心といった村民の皆さんの具体的な成果へと結び付けていきたいと考えています。村外からの力を地域の力へとつなげ、次の世代に誇れる村を築いていくため、これからも自ら率先して動いてまいります。

村の魅力発信を担うブルルとミルリ

ツール・ド・九州の表彰式